

司書就職活動体験記

伊草 祥子（文学部文学科日本文学専修）

はじめに

私は平成 28 年度の地方自治体の採用試験において市立図書館の司書職として採用されました。就職活動では、地方公務員の司書職を中心に、国立国会図書館、国立大学法人の司書職、私立大学の司書職、専門図書館を受験しました。

1. 志望動機

私は子どもの頃からよく図書館に通っていて、図書館で自分にとって大切な本と出会えたことから、漠然とはありますが、小さいころから人と本をつなぐ仕事がしたいと考えていました。入学当初は図書館について就職先のひとつの候補程度にしか考えていなかったのですが、司書課程の授業を受ける中で司書になりたいという気持ちが強くなりました。特に、情報を提供することで人の悩みを解決する手助けや、やりたいことを支援する一助になるというところに魅力を感じて司書を志望しました。

2. 試験対策

①筆記試験

教養試験の勉強は 3 年生の夏から少しずつ始めました。一番苦手意識のあった数的処理の問題集を通学の電車の時間だけ取り組むことから始めました。本格的に勉強し始めたのはサークルを引退して時間の余裕ができた 3 年生の 11 月頃です。予備校には行かず、自分で解説を読んで十分理解できるレベルの参考書を買って勉強しました。私は捨て科目は作りませんでした。勉強をはじめた時期が遅かったので、科目の中でも出題頻度の高い分野を中心に勉強し、頻度の低い分野には手をつけませんでした。また、教養試験については自治体によって一般的な公務員試験の代わりに、民間企業が行うような SPI や SCOA を課すこともあります。どういう形式なのか知るために問題集を買ってひととおり目を通し、実際の勉強はそういった自治体を受ける直前にしていました。

専門試験については 3 年生の 3 月頃から始めました。司書職の専門試験の問題集を買ってそれに取り組みました。出版されているものは限られていますが、解説を読み込めばそれだけでもかなり勉強になります。他にも国立大学法人や地方自治体、インターネットの個人のブログなどで過去問を公開しているものも活用しました。インターネット上のもは解答がないので、教科書や事典類で調べてノートにまとめていました。

②面接対策

私は面接に対してはとても苦手意識がありました。アルバイトの応募でも 10 回以上面接には落ちていて、就職活動でも 8 月末までに受けた面接ではすべて不合格でした。ですので、面接に受からない、苦手だ、という人でもあきらめないでほしいと思います。面接の練習には、大学のキャリアセンターの個人相談や面接実践を活用しました。その他にも初対面の人と話す練習として、大学外の有料の面接練習を 2 回だけ利用しました。また、民間の就職活動を終えた友人にお願いして練習につきあってもらうこともありました。志望動機など定番の質問に関しては、話し言葉で紙に書いてみて、それをそのとおりに読むのではなく、そこに書いた内容をその時の自分の言葉で話せるように練習しました。ですが、私にとっては

実際に人を相手にして自分の思っていることを話すというのが、一番効果的な練習だったと思います。

面接で話す内容に関して、一般的な質問については参考にできるものはたくさんあるので、図書館関係のことを書きたいと思います。私は、自分が受ける図書館の事業報告書や計画書を読んだり、その図書館に足を運んだりして、司書の仕事の中でも特に自分が関心のあるサービスについて、その図書館の現状はどうか、自分がその図書館に就職したら何をやりたいのかを話せるようにしました。その時に具体的に話せるよう、図書館関係の雑誌から自分の関心のある分野についての記事を読んで、ノートにまとめるということもしていました。実際の面接でも図書館に関する話題を聞かれることは多かったので、自分の興味のある分野に限らず、図書館全体としての出来事には関心を持っておくと良いと思います。

また、3年生の冬頃から、学内で行われる公務員一般職向けの説明会や、司書採用のある自治体の説明会に参加していました。面接の際に、司書ではなく「公務員」という切り口で聞かれることや、説明会の参加の有無、印象に残ったことなどを聞かれることがあったので、行って良かったと思います。また、司書職向けの説明会では司書の方から直接お話を伺うことができ、その先のモチベーションにもつながりました。

3. 司書を目指す方へ

正規職の司書は狭き門とよく言われますが、実際に就職活動をしてみて、ここ数年は採用が増えているということもあるとは思いますが、想像以上に募集があると感じました。私は市町村立図書館を第一志望にしていたのですが、司書の正規職で募集が出れば、日程と体力的に受けられる限りは全国どこでも受けに行くというやり方をしていました。私は、公務員以外のものも含めると12件受けました。もちろん数打てば当たるというわけではないですが、狭き門だと思って挑戦する前にあきらめないでほしいと思います。

また、応援してくれる人はたくさんいるので、頼ってみてください。司書職での就職活動は長期戦になると思います。私も合格を頂いたのは4年生の11月末でした。この間、とても不安になることや、落ち込んでしまうことが何度もあったにも関わらず、なんとか乗り越えることができたのは、色々な人が応援してくれたからです。司書課程の中村百合子先生に相談した際には自分の気持ちが整理できていない状態であったにもかかわらずアドバイスをいただき、また、図書館で働く先輩と連絡をとってくださいました。友人には面接の練習をしてもらったり、勉強のために朝から学校の図書館で待ち合わせをしてもらったりしました。キャリアセンターでは面接練習で利用する度に司書の就職活動をしていると言っていたら、求人が出た時に連絡をいただきました。これだけでなく、特に悩んでいる時には、人と話すことで気づくこと、わかることがたくさんあったので、謙虚な気持ちを持ちつつも、人に頼ることが大事だと思います。

おわりに

ここまで、就職活動を常に頑張っていたような書き方をしてしまいましたが、私は立ち止まったり、休んだり、気分転換に思いっきり遊んだりもしていた、ということをつけ加えておきたいと思います。また、私の就職活動のやり方、そこで考えたことはあくまでもひとつの例にすぎません。最初はわからなくても、たくさん考えて悩む中で自分にあったやり方が見えてくるとと思います。その中でこの体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。司書を目指すみなさんが、自分のペースで納得のいく就職活動をされることを心から願っています。そして最後になりますが、お世話になりました中村先生、佐藤真実子さんをはじめ司書課程の諸先生方、ありがとうございました。